

米イラン戦争は どう終わるのか

終わりの「4つの条件」と「4つのシナリオ」



医知創造ラボ

2026年7月25日時点／公開されている一次資料にもとづく整理

一晩の静けさは 「終戦」ではない

7月25日、イラン側は一晩、新たな米軍攻撃がなかったと報告した。
しかし、これは正式な停戦ではない。

📌 用語の違い

「戦闘停止」「停戦」「終戦」は別のもの。監視と政治合意が伴わなければ戦争状態は残る。

ここまでの経過



覚書は「中身のない紙」ではなかった

- ✓ 第4条 — 海上封鎖の解除を30日以内に完了する
- ✓ 第5条 — 商船の安全通航は60日間かぎり・無償
- ✓ 第8条 — 濃縮ウランはIAEA監督下で希釈して処理する
- ✓ 第13条 — 一部の条項の実施を条件に、最終合意の交渉に入る

📌 文書の性格

公開文書には「ドラフト」と注記。最終講和条約ではない。

固定されていなかった 5つのこと

- ① 順序 — 誰が先に何をするか
- ② 定義 — 「海峡が開いた」とはどの状態か
- ③ 検証 — 核活動を何を基準に確認するか
- ④ 当事者 — 地域で実際に戦う主体をどう縛るか
- ⑤ 修復 — 一度の違反からどう戻るか

ロック1 — 直接攻撃を止める

- ✓ 同じ時刻から攻撃を止める。
- ✓ 病院・水・電力・港湾などの民生インフラを攻撃禁止にする。
- ✓ 軍用ホットラインと第三国の調査班を置く。

📌 ロック1の狙い

一件の違反が、そのまま全面報復に戻らないようにする。

ロック2 — ホルムズ海峡を開く

- ✓ イランは船舶攻撃・機雷・拿捕・恣意的な通航妨害を止める。
- ✓ 米国は港湾と海上封鎖を解除する。

検証の視点

声明ではなく、商船が実際に安全に通れたかを第三者が確認する。

ロック3 — 核と制裁を結び直す

- ✓ IAEAは現地検証ができず、核施設に関する「知識の連続性」を失ったと説明されている。
- ✓ まず核物質と設備を再申告し、査察で基準となる在庫を確認する。
- ✓ その確認に応じて、石油輸出・金融制裁・凍結資産を段階的に緩める。

ロック4 — 地域戦線を同期させる

- ✓ 米国とイランだけが合意しても、イスラエル・レバノン・イラク・紅海で攻撃が続けば本体が壊れる。
- ✓ すべてを一つの条約に入れる必要はない。

📌 同期の意味

直接の当事者を、別枠でも同期した非衝突合意に入れる。

現実的な終わらせ方は3段階

1



STEP 1

緊急安定化

(72時間～30日) 同時刻の攻撃停止とホットラインを置く

⋮

2



STEP 2

海峡の相互開放

イランの航行妨害停止と米国の封鎖解除を交換する

⋮

3



STEP 3

長期合意

核・制裁・安全保障を「行動対行動」で進める

起こり得る4つの終わり方

シナリオ	中身	見分ける兆候
A 管理された不安定状態	攻撃と休止と交渉を繰り返す	数日の休止と再攻撃の反復
B 修正版・段階的覚書	海峡の相互開放から 核・制裁へ進む	ホットライン、実効通航、 IAEA再入国
C 勝利宣言と部分撤収	米国が限定目標の達成を宣言する	米軍の一部後退、制裁は維持
D 大幅エスカレーション	地上介入などに踏み込む	大規模増派、IAEAアクセスの悪化

※客観的根拠のない数値確率は付けない。

短期の本命と、 持続的な出口は違う

短期の本命は、管理された不安定状態。

双方とも全面戦争は避けたい。

しかし相手が折れるまで圧力は続けたい。

📌 持続的な出口

持続的な出口は、海峡の相互開放から核と制裁へ進む「段階的覚書」に近い形しかない。

日本から見るべき指標

攻撃が72時間以上止まるか

商船が実際に通れているか

平時は1日およそ88隻。7月19日時点では15隻程度

IAEAの査察が再開するか

相互の措置と制裁の緩和が、同じ履行表で動くか

原油価格だけでなく、海運保険や輸送費も続くか

まとめ

- ✓ 完全勝利ではなく「相手も同時に動いた」と言える交換条件で止まる。
- ✓ 一晩の静けさを終戦と呼ばない。
- ✓ 4つのロックが検証付きで開くかを見る。

チャンネル登録で応援いただければ励みになります。

本動画は一般的な情報提供です。特定の国や軍事行動を支持しません。